

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	272000282		
法人名	社会福祉法人宏仁会		
事業所名	清風荘グループホーム		
所在地 (電話番号)	〒039-3321 青森県東津軽郡平内町小湊字薬師堂63-23 (電話) 017-755-5531		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成20年10月23日	評価確定日	平成21年1月20日

【情報提供票より】(平成20年10月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8人, 非常勤 人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	3,000 ~ 冬期6,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(10月6日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低	80 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たざわクリニック、平内中央病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所内は昔ながらの家具や小物を置き、畳の場所も多く、利用者が和みやすいように配慮されている。事業所の外には畑や水田を作り、利用者が力を発揮できるような環境作りに取り組んでいる。民家が近くに無い為、日常的な地域との交流は少ないが、地域行事への参加やドライブ等で積極的に外出支援を行い、利用者本位の暮らしを支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	災害対策について、本部と合同で利用者や地域住民参加のもと避難場所を施設と想定しての避難訓練が実施され今後も続ける意向があり、グループホーム独自の訓練も予定されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員取り組めるように、3つのグループを作り、項目を振り分け実施し、それをもとに管理者とケアマネで作成している。外部評価の結果も毎月の会議や運営推進会議で報告し、改善に向けた具体的な検討をして実践している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。検討内容としては事業所の現状報告や職員の研修報告などを中心に行い、また全職員参加している為、毎回困っている事や地域の困った事はないかが話題になり、今後の事業所の取り組みについて共有し意見を受けながら、サービスの向上につなげている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)
	家族へ毎月グループホーム新聞を郵送し、生活の様子をお知らせしている。また、面会時や運営推進会議にて、意見・苦情等がないか確認したり、意見箱を設置し意見や苦情を出せる機会をもうけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近くに民家が無く日常的な地域交流はできないが、地域の祭りやイベントへ積極的に参加したり、車で買い物へ行く等外出の機会を増やして地域交流できるよう取り組んでおり、利用者も楽しみにしている。災害対策訓練では町も協力的で、地域の人と合同で行っている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で「自分たちが高齢者になった場合にどのように暮らしたいか」ということを話し合い、それをまとめ事業所独自に『ご利用者の安らぎと尊厳ある生活を支える事を目的に、健康に配慮し、馴染みの関係の中で一人一人のペースに合わせ、お年寄りの心に寄り添ったケアに努めます』を理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示し、会議やケアの場面では理念に立ち返り話し合いを持ち、職員全員で共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近所に民家がない為、日常的には出来ていないが、地域の祭りやイベントへ積極的に出かけ、職員もイベント時にはボランティアとして参加している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の項目ごとに担当を決め、全職員で取り組めるようにして、サービス向上に努めている。また外部評価の結果を踏まえ、会議等で全職員で話し合い改善に取り組んでいる。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・地域住民・市職員・またグループホーム職員も全員参加し、グループホーム内で2ヶ月に1回の割合で日中帯を利用し、パワーポイント等を使い行われている。その場では、施設の取り組みや、職員による研修発表、その他にも地域の独居利用者の状況等の意見交換をしている。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員が地域行事の実行委員を務め、その活動を通して市職員と交流を深め、現場の現状や地域の実態等を話し合い共有している。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、対象者はいない。地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についてケアマネから勉強会を開いてもらい、職員にも理解してもらっている。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修へ参加して知識を深めている。また、日々の仕事の中で、自覚のない虐待が行われないよう職員間で互いに注意し合い防止に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項については、書面を用いて家族に十分説明し理解してもらうようになっている。また入居前には必ず見学へ来てもらい不安の解消へも取り組んでいる。契約解除時も十分な説明をし時間をかけて納得してもらうようになっている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月グループホーム新聞を家族へ送付しており、年賀状でも個々の近況を報告している。また、面会時には随時近況を伝え、状態変化時は電話連絡しその都度伝えている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族面会時や運営推進会議で意見や要望を確認している。これまでに電話で「部屋の埃や薄着している」との意見があり、職員へ伝達し改善、家族面会時には話しやすいような雰囲気を心がけている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動してきた職員が利用者に影響を与えないよう、馴染みの職員が間に入ってダメージを防ぎながら関係作りができるようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修のお知らせは回覧板を使用し全職員が把握できる。希望者に関しては事業所からの援助もあり、積極的参加を促している。また、運営推進会議で研修報告会を行い、より内容を深め発表している。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護実践者研修生の受け入れにより、現場での意見交流は出来ているが、地域の同業者とは交流できていない。		日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な同業者との交流について今後の取り組みに期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の多くは、併設のショートステイを利用している為、入居が近くなった方に関しては、日中グループホームで過ごして頂き、入居前から環境に馴染んで頂けるように工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野で力を発揮してもらい、その中で利用者から教わったり、協力し合う関係性を築いている		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活の中から、利用者本人の思いを会話や表情から汲み取るよう努めている。また、入居時だけでなく家族からも情報を得ている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>これまでの生活習慣や役割、思いを汲み取り、また家族が面会に来た都度、要望を聞いて介護計画に反映させている。</p>		<p>今後、ケアプラン作成前に家族を含めてのカンファレンス行う計画がある為、今後の取り組みに期待したい。</p>
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態変化などにより、介護計画が現状と合わない場合は、現状に即した新たな計画を作成している。評価もカンファレンスを利用し必要時は栄養士にも参加してもらって実施している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>外出や外泊時に家族からの希望で送迎をしたり、訪問看護の介入で入院をせずに点滴を受けたりしている。終末期にはギリギリまで住み慣れた施設でという希望の家族もあり、医師とも相談し協力を得ながら対応できる体制がある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。また、法人の協力医と連携を図り、情報を密に取り合っている。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期の利用者に対して、家族の意向を確認し、状態変化に合わせ職員・医師と繰り返し話し合い連携を取りながら対応している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>法人内で研修を行い知識を深め周知できている。また、利用者の誇りやプライバシーが守られるよう声掛けにも気を配っている。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、本人のペースや思いを優先させ無理強いせず、柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で作った大根を利用したり、利用者と職員が和気藹々と共に盛りつけや配膳などを行っている。また、職員も同じテーブルで食事を摂っている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は特定せず、利用者の気分や希望に合わせて入浴できるよう支援しており、夕食後や畑仕事のあとに入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作業や草刈り、裁縫など利用者の得意分野を通して利用者との関係性を深めている。また日々の散歩や買い物などの外出の他にも、地域行事などにも積極的に参加している。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の外へは自由に出られる為、好きな時に散歩や畑作業ができる。また、買い物へは店が遠い為、希望時に車で出掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修へ参加して知識を深めている。また、日々の仕事の中で、自覚のない身体拘束が行われないう、職員間で互いに注意し合いケアに取り組んでいる。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、外へ出入りできる所は全て鍵を開けている。また、利用者個々の行動範囲を把握し、職員間で共有して見守りや声掛け等の支援ができています。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で地域住民や行政に協力を呼びかけ、合同で火災、地震想定の実地訓練が行われている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に、管理栄養士からアドバイスをもらい、栄養バランスに配慮している。水分に関しては、摂取量を記載し、飲みたがらない利用者に対しては、ゼリー状にしたり工夫して提供し補給に努めている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者や職員・家族の人へも、うがい・手洗いを徹底している。また、勉強会で知識を理解し、利用者・職員共にインフルエンザの予防接種を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>昔ながらの家具や小物を様々な所に設置している。また利用者がくつろげるように、ソファーやベンチ・畳を設置し、いつでも利用者の好きな所で過ごせるように工夫されている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や写真も多く、設置場所も利用者の希望を取り入れながら個々に合わせ、生活し易いよう考慮し支援できている。</p>		

 は、重点項目。